

2016年11月 淳風会長久手支部スケジュール

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2 秋ヶ池練習 (会費集金)	3 淳風会大会	4	5 秋ヶ池練習 (会費集金) ※洋平不在 (大会審判)
6 秋ヶ池練習 ※洋平不在 (大会審判)	7	8	9 秋ヶ池練習	10	11	12 秋ヶ池練習
13 秋ヶ池練習 40周年演武練習会 (緑SC12:00~15:00)	14	15	16 秋ヶ池練習	17	18	19 秋ヶ池練習 高校東海大会 (守山SC) 全日本学生選手権大会
20 練習休み 常心門愛知県連40周年 記念式典 高校東海大会 (守山SC) 全日本学生選手権大会	21	22	23 秋ヶ池練習 (15:00~17:00) 県連ジュニア強化練習 (みよし9:00~12:00)	24	25	26 秋ヶ池練習
27 練習休み 名古屋市大会 (日本ガイシ)	28	29	30 秋ヶ池練習			

水曜日 (秋ヶ池体育館)
1部 (白~緑帯中心。茶帯以上は指導も)
18:00~19:00 からだ作り+基本
19:00~19:30 クラス別練習
2部 (茶帯以上中心。組手希望者。型自主練習可。)
19:45~20:15 組手基本+打ち込み
20:15~20:30 組手試合
20:30~20:45 型練習 (強化選手中心)
20:50 発表、終了

土曜日 (秋ヶ池体育館)
1部 (白~緑帯中心。茶帯以上は指導も)
18:00~19:00 からだ作り+基本
19:00~19:30 クラス別練習
2部 (茶帯以上中心。組手希望者。型自主練習可。)
19:45~20:15 組手基本+打ち込み
20:15~20:30 組手試合
20:30~20:45 型練習 (強化選手中心)
20:50 発表、終了

日曜日 (秋ヶ池体育館)
15:00~15:45 からだ作り
15:45~16:15 基本
16:15~16:45 クラス別練習
16:50 発表、終了

・会費 (道着・拳サポーター申込みも含む) の集金について
会費の集金は第1水曜日の7:15~7:45 及び、第一土曜日の6:00~6:30に受け付けます。

11月の主な行事

11/3 (木祝) 淳風会大会 (尾張旭市総合体育館)
40周年記念演武練習会 (緑SC12:00~15:00)
11/13 (日) 常心門愛知県連40周年記念式典
(キャッスルプラザホテル17:00~20:00)
11/19~20 (土日) 全日本学生選手権大会 (日本武道館)
11/19~20 (土日) 東海地区高校大会 (守山SC)
11/23 (水祝) 県連ジュニア強化練習 (三好公園総合体育館9:00~12:00)
11/27 (日) 名古屋市小・中学生大会 (日本ガイシ)

12月の主な行事

12/10~11 (土・日) 全日本空手道選手権大会 (東京武道館・日本武道館)
12/18 (日) 昇段級審査会 (緑SC)
12/23 (金祝) 県連ジュニア強化練習 (場所未定)
12/24 (土) 長久手支部納会 (秋ヶ池体育館)

日輪杯空手道交流大会 (10月20日 日進市スポーツセンター)

小学1年男子型	努力賞 (ベスト8)	伊藤文武	小学1年男子組手	努力賞 (ベスト8)	伊藤文武
小学2年男子型	準優勝	浅井翔守	小学2年男子組手	努力賞 (ベスト8)	浅井翔守
小学4年男子型	努力賞 (ベスト8)	榎木和幸	小学3年男子組手	努力賞 (ベスト8)	瀬谷健太郎
	努力賞 (ベスト8)	水田雄大			

空手とは何か?

皆さんの中には、空手はスポーツの一つと考えている人がいるかも知れません。《スポーツ》という視野で見ると、その通りです。一方で、《武道》という視野で見ると、競技空手は空手全体のごく一部に過ぎません。一方で、型と組手は別だと考えている人がいるかも知れません。型も組手も、空手道の一つの形であり、どちらかを軽視しては空手道として片手落ちになってしまいます。

以下に、宗家の書いた文章の一説を引用します。皆さんが頑張っている空手というものが何なのか? 考えてみると、普段の練習の意味もわかってくるかも知れません。

「由来、日本の武道は、剣術・柔術・弓術・馬術・その他を含む武芸十八般の総合でありました。やがて時代と共に専門化され細分化され、各種武道への推移を見ます。社会性や教育性の要求は、戦いの《術》から人間淘汰への《道》を説くに至り、大義名分を必要としてきました。～中略～

空手のみでなく、《術》からの和の道や平安の道を説いた古人の英知は、もちろん尊い事と思われまふ。しかし、その事(《術》)を極めた者が心法を説き、和や平安の道を説いたが故に価値ある事であって、術を素通り、《道》を先取りするものではありません。何と云っても、武道は《術》に立脚した活動体でなければなりません。ただ、単に《術》を術にとどめる事であるなら、強き蛮風者も生み出し得る、という点で充分とは言えないのです。

空手が人間形成や精神法のみ文化であるなら、それは空手以外の専門分野があるのです。空手が体育や健康法のみ文化であるなら、それも空手以外の専門分野があるのです。なにも空手だけが人間形成や健康法に寄与する道ではありません。空手が人間に寄与する本来の縮図や、むしろ術なき道を否定する事から出発します。～中略～

空手道は、また経験至上主義の、体験や肉体オンリーの考え方も満足しません。術を求めようとする過程の中に、また術から道へ高めようとする過程の中に身をゆだね、やがて術と道を平等視し、一体化する所に究極を置きます。言い換えるなら、《術への道》《道への術》とも言えまふ。それ故に、究極を目指す修養の門は、道から入るも、術から入るも、理から入るも、技から入るも全く開知しません。しかし、鍛錬という肉体的行動の場を軽視する門は、空手のどこにもありません。なぜなら、それは空手の仲間に加わる事が出来ませんし、それを空手とは呼ばないからです。」(池田奉秀著 古流現代空手道集第一巻78ページ引用)

合宿を終えて

10月1日、2日には恒例の長久手支部合宿を行いました。「つなごって、広がって、わくわくしよう」をテーマに、名東支部、東郷支部からも参加してもらい約90名という過去最大規模の合宿になりました。二日目は、長久手クラブも行い、笑いあり、涙ありの美りある合宿だったと思います。準備・運営に関わってくれた方を中心に、皆さんの力が合わさったからこそ、みんなが成長できる場になったのではないかと考えています。本当にありがとうございました。

合宿の後、空手が楽しくなった、組手が面白くなったという声を聞きました。一方で、組手がこわくなった、審判はやりたくない、という声も耳にします。私は、成長のためには何事も経験だと思っています。組手は、相手と向き合って試合するわけですから、こわいものです。相手が強ければなおさらです。でもそこから逃げない立ち向かうことで、乗り越える楽しさを知って成長していきます。審判もまた、成長のための場になります。子供たちが涙を流すほど真剣に取り組んでいる組手に対して、判定をするわけです。一つの判定が、その子の人生を変えるかも知れません。そんなフラッシュを感じながら緊張感を持って審判をしていると、一つ一つの技の向こう側にある、その子の努力や、涙や、覚悟が見えてくるような気がしてきます。そうやって、見る目を養う事もまた、武道の道の一つだと思っています。

池田奉秀宗家をしのぶ会に出席して

10月22日、東京で宗家をしのぶ会が行われました。最期の会は、日本全国からのみならず、世界に広めた幹部が集まって、最後の別れを惜しましました。記念品に頂いたグラスには、こんな手紙が添えられていました。

「親愛なる皆さんへ このグラスに沢山の夢を注ぎ、時折、私の事を思い出していただければ幸いです。私は、先に待っている高弟と武道談義しながら楽しく飲んでいました。そして、皆さんの人生に幸多かれと念じています。皆さんの厚情に、心より感謝申し上げます。 2016年10月22日 初代宗家 池田奉秀 (代筆・池田亜衣)」

武道がどれだけ幅広く、奥深いか、私にもまだわかりません。一生涯をかけても、わからないものなのでしょう。でも、私が空手を通してお世話になり、亡くなった先生たちは、宗家のように最後まで空手を通して光り輝いていました。

「世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つということです。」福沢心訓の一説です。(文：水田洋平)